allcinema

ゴジラ対ヘドラ（1971）

GODZILLA VS THE SMOG MONSTER

メディア 映画
ジャンル 特撮　ファミリー　モンド
製作国　日本
色彩　Color
時間　85分
初公開日 1971/07/24
映倫　G

【解説】

海洋学者・矢野の元へ持ち込まれた不思議なオタマジャクシ状の生物。だが、ヘドロの海で採れたその生物は鉱物で出来ている脅威の生命体だった。その頃、海では船舶事故が相次いでおり、ＴＶカメラには奇怪な海坊主のような怪物の姿が捉えられていた。矢野の研究によって未知の生物は合体・増殖を繰り返す事が確認され、海の怪物も同種のものと断定された。ヘドラと名付けられたその怪物は遂に港から上陸、工場地帯でスモッグを吸収していく。矢野の一人息子・研の呼び声に応じるかのように突如出現したゴジラはヘドラに戦いを挑むが、不定形のヘドラにはゴジラの放射能火炎も効果がない。ヘドラの肉片からは宇宙鉱物ヘドリュームが発見された。これが公害による廃液などをエサとして成長したものがヘドラだったのだ。液状のヘドラに対し、巨大な電極版による乾燥作戦が始まるのだが……。

当時、日本を騒がせていた公害問題を巧みに取り込んだ作品でシリーズ最大の異色作。ヘドラなるストレートなネーミングから想像しえるような安直な内容ではなく、随所に斬新なアイディアが取り入れられた意欲作と言っていい。「水銀、コバルト、カドミューム……」と元素の名称がふんだんに取り入れられた主題歌、公害問題を不気味に訴えるアニメーションの挿入、逃げ惑う群衆などの絵が一切存在しない悪夢のようなナイト・シーンのゴジラとヘドラのバトル、随所にインサートされる公害のニュース映像、サイケデリックな幻覚イメージ……トラウマ必至のテクニックが駆使されまくった、怪獣映画としては希有な“作家性”を感じさせる作品だ。成長に合わせて４段階に変化するヘドラも、その不気味なキャラクターは久々にインパクトのある新怪獣となった。唯一の難点は、飛行するヘドラを追うために、シッポを抱えて口から火を吐き空を飛んでしまうゴジラの姿だけであろう。

なお本作は、「東宝チャンピオンまつり」の一作として、『帰ってきたウルトラマン』、アニメ『いなかっぺ大将』『みなしごハッチ　傷だらけのバレリーナ』『日本むかしばなし　わらしべ長者』と共に上映された。

【登場怪獣】ゴジラ／ヘドラ

【クレジット】

監督	坂野義光
製作	田中友幸
脚本	馬淵薫
	坂野義光
撮影	真野田陽一
美術	井上泰幸
編集	黒岩義民
音楽	真鍋理一郎
特技・合成	徳政義行
	土井三郎

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

特殊技術	中野昭慶	
アクション	中山剣吾	
	中島春雄	
出演	山内明	矢野徹（海洋学者）
	木村俊恵	矢野敏江（徹の妻）
	川瀬裕之	矢野研（徹の息子）
	柴本俊夫	毛内行夫（敏江の弟）
	麻里圭子	富士宮ミキ（ダンサー）
	吉田義夫	伍平じいさん
	鈴木治夫	自衛隊幹部将校
	勝部義夫	自衛隊技術将校
	岡部進	アナウンサー
	渡辺謙太郎	アナウンサー
	大前亘	巡査
	岡部正	学者
	加藤茂雄	トビ職
	由起卓也	通信員
	小松英三郎	下士官
	権藤幸彦	ヘリのパイロット
	中沢治夫	若者

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.